



2012～2013 年度 ROTARY CLUB OF TOYOKAWA HOI CLUB WEEKLY

やらまいか

例会日/毎週火曜日 12:30 例会場/豊川商工会議所

会長/高桑 耐 幹事/大木健市 会報委員長/池田 弘

事務局/豊川市豊川町辺通 4-4 豊川商工会議所会館内 TEL0533-86-2535 Fax0533-86-8889

HP/<http://toyokawahoi.tank.jp>

クラブテーマ: ENJOY ROTARY 絆、みんな仲良く、クラブの未来へ

本年度8第回 通算1262回 平成24年8月28日(火)	出席報告	会員総数	出席者数	出席率	8/7 修正出席率
		57名	31名	62%	100%

ゲスト: ガバナー補佐 松井 昭さん 地区副幹事 後藤章信さん 分区幹事 別所淳二さん ビジター: (なし)

★会長あいさつ

高桑 耐会長



こんにちは。日本がオリンピックに参加して100年になると先週お話をしました。100年前のことを色々調べて

してみました。100年前というと、明治45年、大正元年になります。その年に、世界一の旅行会社 JTB が創業しました。日本活動写真、現在の日活が創業。電気掃除機がこの頃から日本で売れるようになりました。それから、ポマードもこの頃から発売されました。東京タクシー会社が出来て、当時のフォード6台で新橋と上野駅を拠点として走っていたそうです。料金メーターはドイツ製なので、マイルでの計算です。初乗り0.5マイル(0.8キロ)が60銭、0.3キロ毎に10銭で、速度制限が16キロだったそうです。当時の呼び方は、一般旅客自動車という名称でした。当時の東京の人口が300万人で、車が260～270台ほどだったそうです。100年前はそんな感じでした。ちなみに、大木幹事の会社は、明治元年創業の145年前に大木綿店という屋号で創業したそうです。ご存知のようにロータリーは100年以上前の1905年の明治38年に創立しました。1907年明治40年にシカゴRCがロータリーとして初めての社会奉仕事業として、市役所に公衆トイレを寄贈しています。

明日からパラリンピックがロンドンで開幕します。日本にとって今回のオリンピックが

記録的なオリンピックだったように、パラリンピックでも日本人選手が活躍することを祈念したいと思います。

★幹事報告

大木健市幹事

例会臨時変更のお知らせ
ガバナー公式訪問合同例会について

★委員会報告

雑誌広報委員会(河本委員長)
ロータリーの友8月号の紹介

★ガバナー補佐卓話

松井 昭氏

こんにちは。本年、ガバナー補佐を承りました松井昭です。よろしくお願ひします。私は、豊川宝飯ロータ



リークラブのチャーターナイトに出席した覚えがあります。また、10周年の式典が高桑会長のゴルフ場で行われたときに、当時は幹事として出席させて頂きました。例会にメークアップで来たことは一度もございません、本日が初めてです。

本年、千田毅ガバナーのもとで、私が東三河分区を担当しまして、ガバナーのお考えを皆様方にお伝えをする役割ですので、皆さんに説明をしたいと思います。

外部からロータリーを眺めますと、ロータリークラブというのは、偉い人の集まりか、老人の社交団体か、金持ちの道楽か、という

感じが世間ではあります。しかしながら、もしそうであるならば、なぜ世界で120万人もの会員を集めるような大きな組織が出来たのだろうか。世間の印象からは、大きく発展する印象はありません。そこには、やはり成長するように因子、考え方、理念、哲学、そのようなものがあるからこそ、ここまで来れたのだと思います。

まずは、今年のRI会長は何を言っているのか、それを受けてガバナーは地区でどのように目標を立てているのか、そしてガバナーの



目標が各クラブの会長の方針にどのように影響してくるのか、そして会長方針がクラブの各委員長さんの実行する計画の中に

織り込まれてくるのか、このように一連の流れの中で説明をしたいと思います。

RI会長は、ロータリー友7月号の中で、「ロータリーにおいて奉仕とは片手間にすることも、たまに取り組みことでもありません」とあります。この文章を読むと私の認識と違います。私は、奉仕は片手間にすることで、たまに取り組みでみることです。そういうロータリアンです。RI会長は、食事をする時と寝るとき以外は、ロータリーの奉仕を考えるようで、それがRI会長が生きてきた人生だと思えます。この方は「奉仕とは生き方です」とも言っています。生活のあらゆる面で奉仕を実践するといわれています。私のような一般的な会員では、ついてはいけなくなります。これを理解するために、少し勉強をしました。

ロータリー創立直後の中心概念は、総合扶助でした。職業上の助け合いと親睦という形でスタートをしました。それに対して、世間からは1業種1人というのが、同業者を排除する団体、エゴイズムの集団であると言われていました。3年経った1908年にアーサー・シェルドン氏が入会し、ロータリーの本来の考え方として、「奉仕とは利己と利他が調和する状況である」と定義をされました。ロータリークラブへの入会は、調和をする組織団体として良いとの考えからでした。クラブの親睦というものが、志を同じくする者が癒されると考えたからです。私も若い時に、信仰的な組織をやっていましたが、同じ目的の仲間

に会うと抵抗なく仲間になり癒されます。つまりそのように場として、ロータリーを考えたと思います。私たちは、いつも親睦、親睦と言っていますが、それは何のための親睦かというと、利己と利他の調和を図るためのものであるということです。そして、利益を上げることが、同時に社会貢献になると、それが「最もよく奉仕する者、最も多く報われる」という標語になります。これを一つの考え方として、ロータリーの潮流にあると思います。

それに対しまして、利己と利他は必ず対立をします。対立をした時にどうするかと選択を迫られたときに、フランク・コリンズ氏が1911年に「Service, Not Self (無私の奉仕)」と発表し、利他を優先しなさいと言いました。後に「Service Above Self (超我の奉仕)」という標語になりました。

シェルドンの考え方とコリンズの考え方と2つの考え方があります。1923年にセントルイス国際大会が開催され、決議第34号として採択されました。これは、ロータリーの手帳にも載っています。決議23-34は、知っているけど読んでない人が多くだと思いますが、いろいろと有益なことが書かれていますので、どうか一度は読まれると良いと思います。これは、二人の方の考え方の両方を取り入れたものになっています。このようなものをしっかり取り入れて生きている方が、今年のRI会長の田中作次さんだと私は思います。

国際協議会でのRI会長の挨拶が発表されています。豊川宝飯さんのクラブ計画書に全文が載っています。素晴らしい文書です。その中の抜粋で、「ロータリークラブに入会して、少しずつ変わりました。つまり、収入や売上を増やすことや、自分の会社をほかの会社よりも良くすることだけでなく、人として、職業人として、もっとよい、もっと高い目的をもって人生を送りたいと思うようになったのです。そしてそのために、ほかの人たちの役に立つことが、私にとって人生で最も大切だと思うようになりました」このように言われています。超我の奉仕は単なる標語ではないと言っているのは、このような考え方、生き方をしているからだと思いました。私のような一般会員とは違ひまして、非常にビックリをしました。「人のために生きること」は、「Service, Not Self」です。「人のために生きること、この世界における自分の役割がはっきりと見えてくるのです。」と言われ、そ

して、「日本で軍国主義の台頭の結果を経験した私たちの世代は、自分たちの考え方を換え、平和を選ぶ大きな決断をし、その結果、目覚ましい経済発展を目にしました。この決断があつてこそ、日本は成長と繁栄を遂げることができたと思います。」と歴史観も述べられています。ロータリーは、世界恐慌と第二次大戦を生き抜いてきています。ですが、世界恐慌を阻止できなかつたし、戦争も阻止できなかったです。つまり、ロータリーはそのような組織ではないのです。個人に問われている組織であると思います。「平和というものは、大きな闘争だけで達成するものではなく、日常の簡単な方法の積み重ねによって成し遂げるものである」と一つの悟りを開いていると思います。

2012-13 年度の千田ガバナーの方針は、「Touch the Rotary ふれあい、思いやり、そして握手」です。ふれあいということから、各クラブとの交流も方針にあげています。千田ガバナーは、田中 RI 会長の哲学にふれて、地区の方針を出す時に、結論として平和を取り上げたと思います。だから、「ふれあい、思いやり、そして握手」が出てきたと思います。それに対する手段としての目標のメッセージがガバナー月信 7 月号に載っていますので、皆さんも読まれていると思います。具体的には、奉仕を実践すると言われていています。特に被災地の住民の行動に感銘を受けて、被災者に対しての思い入れがございます。それが被災高校生支援という事業に繋がっていったと思います。この事業に対して強く指示がきました。

地区目標として 6 つあり、一番大事なものは、東日本大震災被災高校生支援プロジェクトです。この事業に対しましては、東三河分区内の各クラブ会長幹事様には、ご理解を頂きまして一般予算に組み込まれたクラブもあります。豊川宝飯クラブさんは、毎週の例会で募金を集めてご支援されると有難いご報告を会長さんから頂いております。地区で 30 名の高校生を支援します。金額では、32,400,000 円になります。東三河分区は、そのうちの 4 名を担当します。これからガバナー補佐訪問で各クラブに理解と了解を頂く予定です。

そして、ガバナーは、地区目標の他にクラブ目標を掲げておられます。クラブは自主性を認められています。RI から指示、命令を受けません。でも RI の意向に反することもでき

ないわけです。そこをあえてガバナーがクラブ目標を出されたことには、異論はありますが、お役としてお伝えをします。ロータリー財団寄付は 100 ドル、米山奨学寄付は 5,000 円、会員増強は 3%以上、他クラブ出席は 1 クラブ 2 名、リスボン世界大会に 1 名以上出席です。

最後に IM の PR です。1 月 27 日にホテルアークリッシュ豊橋で開催します。テーマは「大震災」です。基調講演は、中日新聞社の小出社長です。パネルディスカッションは、三陸鉄道の社長と三陸河北新聞社の方をお招きして行いますので、皆さんご登録をお願いします。ご清聴ありがとうございました。

★クラブアッセンブリー

例会後にクラブアッセンブリーが行われ、各委員会の計画及び事業について松井ガバナー補佐より丁寧にご指導を賜りました。



★ニコニコボックス

松井 昭様 がバナー補佐訪問に来ました
 後藤章信様 〃
 別所淳二様 〃
 波多野四郎会員 松井がバナー補佐を歓迎し
 富田高子会員 誕生日を祝って頂き
 永田恵照会員 事業所創業を祝って頂き

クラブ目標：会員増強純増 2 名
 クラブ目標：R 財団寄付額 \$ 100/人
 現在の状況
 会員増強・・・・・・・・・・純増 2 名
 R 財団寄付額・・・・・・・・\$ 88/人
 会報担当者：池田 弘会員、杉浦元保会員
 このウィークリーは再生紙を使用しています。